



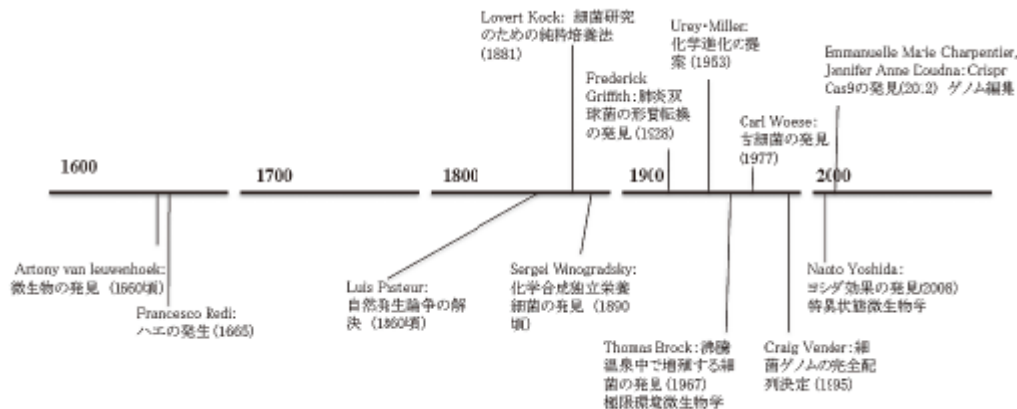
生物は今や自然に発生すると考える人はいないでしょう。しかし18世紀までは自然に発生すると人々は信じていました。人類はどのようにして自然に発生することはないという考えに至ったのでしょうか。近代微生物学史に触れると、精神世界の広がりを理解することができます。

自然にありえない想定をはるかに超える環境や刺激に微生物を暴露させたときの原理原則を求める研究を特異状態微生物学といい、精神世界の広がりの中にあります。



詳細内容はQRコードから確認できます

のうがく図鑑: <http://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/books/book-abs/post-63.html>



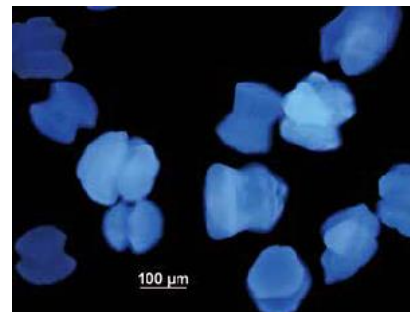
近代微生物学から見る精神世界の広がり

自然界には高温高圧、アルカリ、高塩濃度など過酷な環境があります。1967年に沸騰泉中に生きる生物が発見されました。過酷な環境を好んで生きる微生物の研究を極限環境微生物学といいます。特異状態微生物学の原型です。



宮大法によるクリスタルアスベスト検知手順

ヨシダ効果は細菌と微細針状物質が関係した物理現象で、特異状態微生物学の考えから見出されました。建材中や土壌中のクリスタルアスベスト検知（宮大法）に応用されています。



好熱性細菌 (Geobacillus thermoglucosidarius NY05) が作る鉱物

好熱性細菌を特異状態に置くと、ギ酸や酢酸をカルサイト（石灰岩の一種）と呼ばれる鉱物に変えてしまいます。この鉱物には蛍光特性があります。